

中年期女性の夫婦間ストレスに関する研究

○濱田由紀子 長津美代子（群馬大学）

【目的】 中年期をサクセスフルに生き、豊かな老年期へと移行するためには、中年期女性の生活やパートナーとの関係性を意識と実態の両面から検討する必要がある。そのため、①中年期夫婦に特有な出来事の経験率、②中年期における夫婦間のストレス状況の把握、③夫婦間ストレスに影響する要因、の3点を明らかにすることを目的とする。

【方法】 群馬大学の各学部・群馬県立医療短大・群大卒1～2年目の学生の母親（平均年齢48.9歳）に対する質問紙郵送法。配布数は1200部、有効票877部、有効回収率73.1%

【結果】 ①最も多くの者が経験した出来事は「子供が親離れの時期になった」で57.5%が経験していた。他に経験率が高い出来事としては「本人の更年期症状」や「親の病気や怪我」が挙げられる。②夫婦間ストレスについては、夫との関係を肯定もしないし、否定もしないという複雑な心理状況を表わすものであった。③夫婦間ストレスに影響を及ぼす要因としては、「更年期症状の経験」などの17項目が明らかになった。④数量化Ⅰ類によって夫婦間ストレスに対する影響力の強い要因を析出した結果、「夫婦の信頼パターン」「結婚生活における人間的成長評価」「性別役割分業に対する夫婦の考え方（組合せ）」「更年期症状の程度」「夫の家事参加」「役割アイデンティティ」などが強い要因として浮かび上がってきた。④「更年期症状の程度が中・重」のグループと「子供の他出」を経験したグループを取り出して分析した結果、どちらとも全体の分析ではみられなかった「結婚後の就業パターン」の影響が現れた。